

(様式2)

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
51	川崎市立大谷戸小学校	長嶺 祐介

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
○心豊かで、たくましい子 ○よく考えて、進んで行動する子	○新しい時代を拓く学校経営を目指す。 ○生命の尊さや価値を知り、お互いの存在を尊重できる、心豊かな子どもを育てる。 ○学習指導要領のもと、一人一人が輝き、「確かな学力」を身につけられるようさらなる授業力向上に努める。	『人権尊重を基底に、一人一人が輝く教育活動を推進する』 ・好ましい人間関係づくりと個性豊かな学年・学級経営 ・基礎基本の定着と主体的に学ぶ意欲の育成 ・信頼される学校にするための教職員の連携と協働体制の確立 ・今日的な課題等への対応 (学校の危機管理・不祥事防止・児童及び教職員の事故防止・業務改善の推進)

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
1	○学習指導要領の趣旨を大切に授業力向上に向けた校内研究の推進	校内研究では算数科で学年を中心に授業公開し、全体で意見交換したり外部講師の助言を受けたりしながら授業力向上を図った。児童らは自分の考えをもち、小グループで意見を交わすことができるようになっていった。全体での話し合いにこの力については課題が残る。また、GIGA端末の利用により他の教科でも指導要領を意識して、日々の授業の改善を図った。	「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、担任一人一人の授業力を向上させていく。研修の機会を確保するようにしていく。	
2	好ましい人間関係づくりと個性豊かな学年・学級経営	○児童理解・指導にかかわる研修の充実	日頃の児童の様子に目を配り、アンケートや効果測定から児童理解に努め、児童支援委員会が中心になり共通理解を図りながら日々の指導に生かした。巡回カウンセラーの力を借り面談前に保護者対応について研修をし職員力を高めるとともに、児童や保護者の思いに寄り添えるよう努めた。	児童の困り感と2次支援3次支援を校内で検討し、通級のセンター的機能等を利用しながら学校のチーム支援を推進していく。
3		○「子どもの権利条例」の趣旨を生かした人権尊重教育	児童の人権について外部・校内講師を迎え人権意識を高める研修をし、日々の児童とのかかわりや指導に生かすことができた。児童が担任、CO.に話ができる雰囲気づくりに努めた。	安心して過ごすことのできる学校であるために一人一人を大切に指導支援のできる教職員集団を目指して引き続き研修に努め次年度も推進していく。
4		○豊かな感性を育む情操教育	毎週金曜日に読書タイムを設定し、読書活動を進めた。図書ボランティアによる読み聞かせを実施した。劇団を招き演劇教室を開催して児童の豊かな感性を高めたり野菜や花等植物を育てたり移動動物園でのふれあい体験をしたりすることを通して命と向き合う体験をした。	読書、音楽、観劇、動植物に触れる機会をとっていくようにする。
5	基礎基本の定着と主体的に学ぶ意欲の育成	○基礎基本のさらなる定着と活用の充実	学年を中心とした教材研究を行い、わかる授業、魅力ある授業、楽しい授業を実践するよう努めた。交換授業、少人数指導、専科による協働体制を確立しわかる魅力ある授業をめざした。さらに個別最適な学びが学力差を解消できるような教材研究を進めていく。	日頃から他の教員の授業を参観して授業力向上に努める。教材研究や指導法の工夫をし基礎基本の定着を図る。
6		○特別支援教育の推進	支援が必要な児童へ担任だけでなくCO.と連携して児童理解を図り、入り込みや取り出し支援をすることができた。	引き続き同じ体制がとれるようにする。児童支援の校務分掌の見直しをしていく。
7	信頼される学校にするための教職員の連携と協働体制の確立	○学校教育推進会議との連携	第2回目から学校運営協議会へ移行するべく、教育政策室の支援を受け準備を進め、メンバー選出など地域の意見を聞きながら無理なく行うことができた。学校の経営方針や児童の様子、児童会からの発表を聞いていただくと共に各教室の様子も参観して貴重な意見をいただくことができた。	地域や関連機関と周年行事も意識しながら連携を図る。
8		○家庭・地域参画型教育活動の推進	教育ボランティアを積極的に活用し、児童理解や支援の方法など適宜情報共有して児童に有効な支援ができた。コロナ第5類となり制限なく授業参観や懇談会ができた。	地域への学校公開について運営方法を含め模索する。
9		○「わかば級」における協力指導体制の構築	児童42名、指導者9名という体制のもとわかば級の算数、図工、体育を年間で計画しチームで協働して指導支援をしてきた。さらに児童の実態に合わせ担任同士が連携をとってチームで指導することができた。	今年度の経験を活かし新しいメンバーでも報連相を基本としチームとしてわかば級が動けるようにする。
10		○地域、PTA行事への協力	学校だよりやHP等を使い情報発信することによって教育活動の理解を求めることができた。コロナ前に迫るほど盆踊りや神社の祭礼、夏休みの親子教室やおよじの会寺子屋体験活動など対策を講じたうえで再開する事ができた。PTA運営会議では校内での児童の様子や安全などの話を積極的に伝えるようにした。	今年度も、地域、PTAと連携していきたい。WEBやメール等も利用して迅速で効果的な情報配信する。
11	今日的な課題等への取組	○学校の危機管理	防災担当を中心にして、避難訓練、不審者対応等の防災教育を毎回振り返りより求められることについて検討しながら進めることができた。避難訓練では実際に動き職員共通理解を図ることができた。感染症や熱中症など教育委員会の対策や基準を共通理解し安心して安全な学校生活を送る事ができるように努めた。	国や市の防災マニュアルに沿って、よりよい避難訓練を構築する。様々な避難訓練を実施して教職員や児童の実践力をあげる。
12		○GIGAスクール構想の推進	全学年毎日持ち帰りをし、より児童の身近なものとする事ができた。職員や児童のスキルもついてきた。情報担当会を定例開催とし、バッテリー交換や修理、管理など滞りなく進められるようにした。	どの学級でも同じような扱いができるように必要に応じて職員が研修に努めるとともに推進校等の実践を取り入れていく。
13		○「体罰」「セクハラ」「飲酒運転」など不祥事の防止と研修の充実	不祥事を未然に防ぐために職員会議や打ち合わせなどで適宜話をしたり、研修を行ったりした。	次年度も引き続き、研修に取り組んだり、意識的に話題を取り上げていく。教職員の心身の健康を見守る。
14		○児童及び教職員の怪我などの予防	年度初めに配慮が必要な児童を職員全体で共通理解をした。児童が怪我をした場合の保護者への連絡の方法など適宜見直しを図った。	児童の活動で日頃からいろいろなシチュエーションを想定した対応を考え、職員の危機管理意識を高める。
15		○教職員が児童と向き合う時間を確保するための業務改善の推進	業務改善推進会議や安全衛生委員会留守番電話の自動設定、5時学年退勤、学年会の工夫、環境整備など共通理解を図った。	次年度も引き続き、業務改善を推進していけるよう校務分掌に位置付け推進する。
16		○市制100周年記念事業への対応	100周年担当を中心に学年が協力してスライドを作ることができた。	学校全体で100周年を盛り上げていきたい。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりやホームページの更新を毎回楽しみにしている。 ・児童が自ら考えた委員会活動の取組について感心していた。 ・校庭開放プロジェクトや大谷グループの利用の仕方など児童会が中心になってルールや方法を考え実行していることにお褒めの言葉をいただいた。 ・児童がGIGA端末を積極的に学習で活用していることや学習につけた短作文、作文への取り組みなどの学習活動を今後も継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科の校内研究ではどの学年も積極的に授業研究に臨んだ。次年度は算数科の校内研究を継続し全員授業公開を計画している。 ・素直で友達に優しくできる児童が育っている。 ・学校運営協議会の力を借りながら、よりよいコミュニティースクールを作っていく。 ・今年度の反省を踏まえて、さらに児童会がのびのびと笑顔で過ごせる活動について職員全員で考えていきたい。